

長崎県立大学生を対象とした公共交通の

利用促進策の検討

1. 調査の主旨及び方法

- ・ 佐世保市公共交通網形成計画において利用促進策等の検討・実施が位置付けられています。利用促進策を具体的に検討・立案するため、潜在的な公共交通需要に関する調査を実施します。
- ・ 協議会委員の長崎県立大学・石川教授のご協力をいただき、学生や市民等の多様な意見・要望等を把握・集約し、事業者とも連携しながら、実効性の高い施策の立案を目指します。
- ・ 調査のアプローチとしては、まずは利用者のターゲットを絞り促進策に関する仮説を設定し、それをアンケート調査で検証していくという、「仮説－検証」のスタイルとします。

《利用者のターゲット》

現在、定期利用が少ない大学生とします。高校生までは通学等でバスや鉄道に慣れ親しんでいた人が多いにも関わらず、ライフスタイルの急激な変化により、自家用車に利用転換が進むと共に、徒歩や自転車利用圏内である大学周辺中心での生活となっています。そこで、中心市街地等へのお出かけ機会の創出の一環ともなる公共交通機関の利用促進策に取り組み、就職後も過度に自家用車へ依存しない生活習慣につながるよう期待する。

2. 利用促進策のアイデア検討

長崎県立大学の学生にご協力いただき、2度にわたり利用促進アイデアの検討を行いました。アイデア検討の中で、利用促進策として「定期券の割安延長乗車」、「お友達割引」、「飲食店等と連携した利用促進」の3案を整理しました。

日付	参加者	検討内容
平成27年8月4日(火) 13:30-15:30	長崎県立大学石川教授 学生5名 佐世保市 日本総研	○検討の進め方についての意見交換 ○自己紹介(長崎県立大学生の行動特性も含む) ○利用促進アイデアのフリーディスカッション
平成27年9月14日(月) 15:00-17:00	長崎県立大学石川教授 学生4名 佐世保市 日本総研	○検討の進め方についての意見交換 ○需要開拓策アイデア案の説明 ○アイデア案のブラッシュアップ ・飲食店等と連携した割引プラン ・同行者割引のある定期券等 ○アンケートの計画

3. アンケート調査結果

利用促進策の作成を受け、平成27年10月に長崎県立大学学生108人（石川教授の授業を受講している学生対象）に公共交通機関の利用状況や利用促進策への意見等についてアンケートを行いました。結果の概要を以下に集約しています。

I. 定期券の利用状況

居住エリア	居住割合 (%)	定期券保持者割合 (%)		備 考
		定期券保持者割合 (%)	それ以外 (%)	
大学周辺	81.5%	4.5%	(人数換算112人)	大学周辺の学生は徒歩・自転車・バイクでの通学が主 定期券は通学の他、アルバイト勤務が目的
		95.5%	(2,373人)	
大学周辺以外の市内・市街	17.6%	47.4%	(人数換算254人)	遠距離通学の学生は公共交通機関が多いが、それ以外は、自家用車での通学が主
		52.6%	(人数換算283人)	

*平成27年度の在籍学生数3049人で人数換算しています。

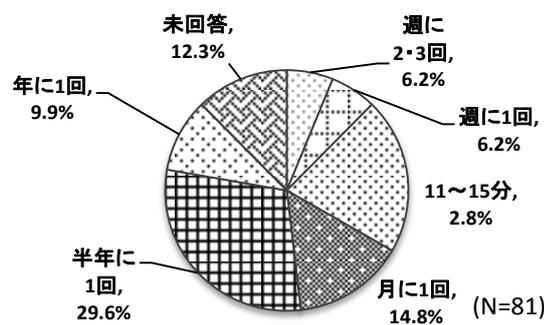
*居住割合が合計100%にならないのは未回答のため

II. 定期券を利用していない方の利用状況

(1) 現状の公共交通利用状況

①バスの利用

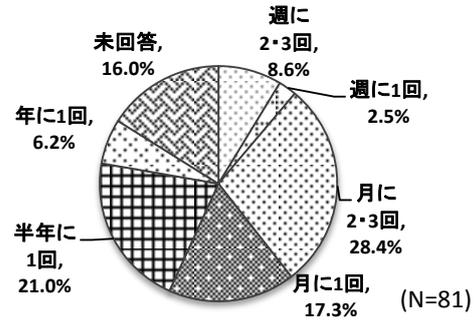
バス利用頻度	回答者数	比率
週に2・3回	5	6.2%
週に1回	5	6.2%
月に2・3回	17	21.0%
月に1回	12	14.8%
半年に1回	24	29.6%
年に1回	8	9.9%
未回答	10	12.3%
集計	81	100.0%



- ・バス利用頻度では、半年に1回24(29.6%)が最も高く、次いで月に2・3回17(21.0%)、月に1回12(14.8%)と続いている。
- ・月に1回以上の利用頻度があるという回答は48.2%となっている。

②松浦鉄道の利用

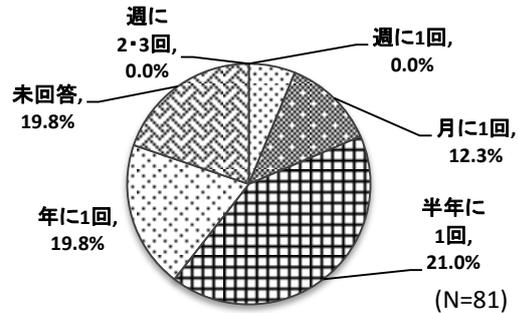
MR利用頻度	回答者数	比率
週に2・3回	7	8.6%
週に1回	2	2.5%
月に2・3回	23	28.4%
月に1回	14	17.3%
半年に1回	17	21.0%
年に1回	5	6.2%
未回答	13	16.0%
集計	81	100.0%



- ・MR利用頻度では、月に2・3回 23(28.4%)が最も高く、次いで半年に1回 17(21.0%)、月に1回 14(17.3%)と続いている。
- ・月に1回以上の利用頻度があるという回答は56.8%となっている。

③JR九州の利用

JR利用頻度	回答者数	比率
週に2・3回	0	0.0%
週に1回	0	0.0%
月に2・3回	5	6.2%
月に1回	10	12.3%
半年に1回	34	42.0%
年に1回	16	19.8%
未回答	16	19.8%
集計	81	100.0%



- ・JR利用頻度では、半年に1回 34(42.0%)が最も高く、次いで年に1回 16(19.8%)、月に1回 10(12.3%)と続いている。
- ・月に1回以上の利用頻度があるという回答は18.5%となっている。

(2) 利用頻度が高まると思われるサービス改善内容

	回答者数	比率
運賃の割引	54	67%
等間隔の運行等わかりやすいダイヤ	16	20%
遅れの少ない正確な運行	18	22%
バス停や駅等の待ち空間の改善	13	16%
市バス、西肥バスの共通定期券	7	9%
バスと鉄道の共通定期券	5	6%
その他	9	11%
頻度を高めることはない	9	11%

- ・利用頻度を高めるために必要な改善点では、運賃の割引が67%と最も高く、次いで遅れの少ない正確な運行(22%)、等間隔の運行等わかりやすいダイヤ(20.0%)と続いている。
- ・特に、大学から佐世保駅までのMR及びバスの運賃350円(往復700円)が高いという指摘が複数(8人)有り、300円(往復600円)が良いといった具体的な値段の意見(4人)もあげられた。

Ⅲ. 利用促進に関する意見

Ⅲ-1 定期券を活用した利用促進について（定期券利用者より意見聴取）

【アイデア1：定期券の割安延長乗車】

通学で定期券を利用している大学・高校の学生等を対象に、割安な追加料金を支払うことで、定期区間に含まれていない場所（例えば、買い物先やアルバイト先など）までの延長乗車ができるような定期券を発行し、公共交通の利用促進を図る。

【利用イメージ例1】



【利用イメージ例2】



回答内容	割合 (%)	人数換算(人)	
是非利用したい	23.1%	84人	197人
利用したい	30.8%	113人	
どちらでもない	38.5%	141人	
利用しない	0%	0人	
未回答	7.7%	28人	
集計	100%	366人	

*平成27年度の在籍学生数3049人のうち定期券保持者を366人(1のまとめから112+254)として人数換算すると、定期券を活用した利用促進策のターゲットはこのアンケートからは197人となり、少ないと思われます。

Ⅲ-2 定期券を保持していない人の利用促進について

(定期券を利用していない人より意見聴取)

【アイデア2：お友達割引】

あなたの友人が通学定期券をもっている場合、その友人にあなたが同行してバスに乗車する場合に限り、運賃が割引になる割引制度を導入する。例えば、複数人数で中心市街地に往訪する際に、その中に定期保有者がいれば、その他の同行者も通常より安くバスが利用でき、公共交通の利用促進が期待される。

回答内容	割合 (%)	人数換算(人)	
是非利用したい	21.1%	560人	1,641人
利用したい	40.7%	1,081人	
どちらでもない	18.5%	491人	
利用しない	7.4%	197人	
未回答	12.3%	327人	
集計	100%	2,656人	

*平成27年度の在籍学生数3049人のうち定期券保持者以外を2,656人(1のまとめから2,373+283)として人数換算すると、利用意向者は1,641人、61.8%となり利用促進に寄与すると思われるが、そもそも通学定期券を持っている友人が3-1と同様に少ないことから、今回は推進しないものとする。

Ⅲ-3 広範囲を対象とした利用促進について

(みなさんへ意見聴取)

【アイデア3：飲食店等と連携した利用促進】

中心市街地の飲食店等と連携して、公共交通利用の飲食利用者に対し、公共交通費の割引を含んだプランを提供し、飲食店の集客力アップ+公共交通の利用促進を図る。具体的な連携案のイメージとして以下のようなセットを想定します。

《飲み会セット》

・複数人(4~5人以上)で、指定の店舗での飲み会と、帰りのバスチケットの割引がセットとなったプラン

《ランチ(スイーツbuffet)セット》

・複数人(4~5人以上)で、平日昼の時間帯における、指定の店舗でのランチ(スイーツbuffet)と、帰りのバスチケットの割引がセットとなったプラン

(1) 飲み会セットについて

回答内容	割合 (%)	人数換算(人)	
是非利用したい	33.3%	1,015人	2,229人
利用したい	39.8%	1,214人	
どちらでもない	10.2%	311人	
利用しない	5.6%	171人	
未回答	11.1%	338人	
集計	100%	3,049人	

(2) ランチセットについて

回答内容	割合 (%)	人数換算(人)	
是非利用したい	22.2%	677人	1,692人
利用したい	33.3%	1,015人	
どちらでもない	21.3%	649人	
利用しない	11.1%	339人	
未回答	12.1%	369人	
集計	100%	3,049人	

<参考>

□利用したい店舗名 (飲み会セット)

店名	回答者数
パンプキン	6
とり金	3
ニパチ	3
闇市	2
魚民	2
和民	2
とんぼ	1
らしんばん	1
リバリバ	1
牛角	1
tita	1
登龍庵	1
酒菜	1
二束三文	1
おらが村	1
高田屋	1
ささいずみ	1

□利用したい店舗名 (ランチセット)

店名	回答者数
ピノキオ	3
白十字パーラー	2
百菜	1
ぶどうの木	1
浜かつ	1
VITO	1
パードモナミ	1
カフェドルツカ	1
ドットファイブ	1
99しま	1
ハーバーテラス	1
ドトール	1
THEONE	1
つばき食堂	1
五屋食堂	1
モスバーガー	1
びっくりドンキー	1
失恋休暇	1

*平成27年度の在籍学生数3049人について人数換算すると、利用促利用意向者は飲み会セットで2,229人、73.1%、ランチセットで1,692人、55.5%となりターゲットは広範囲となります。

4. 今後の展開と課題

アンケート結果を受け、利用促進策の3案の内、「飲食店等と連携した利用促進」に対して利用促進意向者が最も多い結果となりました。また、このアイデアはバス事業者側から見た場合、影響を受けるような他のサービスもないことから、事業化へ向けて大学側（学生の協力者が必要）と話をすすめていくこととしています。

今後、利用促進策を具体的に進めていく上では、関係機関となるバス事業者、連携飲食店、長崎県立大学、利用者（学生）の役割分担を整理し、それぞれの立場から想定される効果をより明確化することが求められます。

また、長崎県立大学の学生をターゲットとした利用促進策を、他の大学に展開する、さらには高校生や、子育て世代をターゲットにする等、利用促進策を拡張することで、広く多くの方々に利用促進が可能であると考えられます。